

埼玉アートシアター 通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2013.9-10

NO. 47



Dance,

Dance,
Dance!

dancetoday2013

ダブルビル

島地保武+酒井はな

〈アルトノイ〉

マチルド・モニエ

Mathilde
MONNIER



ピナ・バウシュ ヴツパタール舞踊団
『コンタクトホーフ』上演決定!

ヴェルディ・ガラ・コンサート
バッハ・コレギウム・ジャパン

dancetoday2013

ダブルビル

関かおり



2013.9-10
NO. **47**

- 03 **DANCE** ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団
『KONTAKTHOF—コンタクトホーフ』来春公演決定!
- 06 **DANCE** 作曲家、三宅 純が語るピナ・バウシュ
- 07 **REPORT** 【ザ・ファクトリー3】
さいたまゴールド・シアター×瀬山亜津咲 (ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団)
ワーク・イン・プロGRESS公開
- 08 **DANCE** dancetoday2013 ダブルビル
島地保武+酒井はな〈アルトノイ〉
- 10 **DANCE** マチルド・モニエ『ピュディック・アシッド』『エクスタシス』
- 12 **MUSIC** ヴェルディ・ガラ・コンサート 横山恵子・福井 敬 インタビュー
- 14 **MUSIC** バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》
朝岡 聡、バッハ・コレギウム・ジャパンを熱く語る
- 16 **MUSIC** ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団
- 17 **PLAY** 彩の国さいたま寄席 四季彩亭〜若手落語家競演会
- 18 **COLUMN** アーティストの原点12 六平直政
- 19 **REVIEW** 2013.7-8 彩の国のアーツ
- 20 イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ
- 23 THEATER BRIDGE



COVER
1. 島地保武、酒井はな『PSYCHE』 Photo◎瀬戸秀美
2. マチルド・モニエ『エクスタシス』 Photo◎Marc Coudrais
3. 関かおり『マアメント』 Photo◎松本和幸

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2013.9-10 No.47
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘 [bueno]

◎公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15.Sep 2013 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2013年8月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

Tanztheater Wuppertal Pina Bausch KONTAKTHOF

DANCE

演劇とダンスの融合「タンツテアター」で独自の世界を切り拓いてきたピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団が、2014年3月、彩の国さいたま芸術劇場では10年ぶりとなる来日公演を行う。演目は1978年初演（日本初演は86年）の『コンタクトホーフ』。ピナが愛してやまなかった作品が、当劇場の開場20周年を飾る。

『コンタクトホーフ』 Photo◎Jochen Viehoff



ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 『KONTAKTHOF—コンタクトホーフ』

来春 2014 Spring
公演決定!



ピナ・バウシュ (1940~2009)
Photo◎Wilfried Krüger

私、ピナ・バウシュって好きじゃないんだよね——この言葉の前が何だったか覚えていないが、ある目上の人からこう言われた時、筆者の口をついて出てきたのは「それはお気の毒に」だった。もちろんこれがどんなに不躰かということはわかっている。ピナ・バウシュとヴッパタール舞踊団が日本に来てくれるようになった初期の頃、あるいは枯れ葉で埋めつくされた室内でバルトークのレコードの録音テープをブツブツ切りながら何度も同じ音楽が流れてくる〈青ひげ公の城〉のような、生理的嫌悪感を抱かせかねない作品には、「好きじゃない」どころか、途中で席を立ったり、アジ演説を始める観客までいたぐらいだ。

でも、幸運にも最初の出会からピナの創り出す世界にどっぷりはまることが出来た者にとっては、「好きじゃない」という人をオルグしている時間なんてもったいなくてないし、そんな暇があったら1作でも多く観せてほしい。いや同じ作品でもいいから何回も観せてほしい、と。加えて、何気なく表現されていた動きのヒントとなったものを、数年後に意外な形で見つけた時の喜びと言ったら！ 舞台上の作品を観ることがただの受け身ではなく、こちらの想像力やそれに付随する創造力でどんどん深く豊かなものになっていく、と教えてくれたのもピナだった。ひとつ例をあげると、『山の上で叫び声が聞こえた』という作品

で、1組の男女の腕を複数の男性ダンサーがつかみ、ぶつけ合わせるシーンが出てくる。ぶつかった後、波が砕け散るようにその男女もダンサーたちもてんでにばらけるのだが、見ようによっては「暴力的」と受け取られなくもない。

ところがこのシーケンスを「初恋でしょ、あれって」と言った友人がいる。この解釈にはさすがに驚いて、ピナ本人に伝えたところ、ニッコリ笑って「わかっているわね、その人」。そう、ピナの作品は表面的なものだけでない、二重三重の思いにまでイメージネーションを行き渡らせないと、本当に「触れ合った」ことにはならないのだ。

来日公演当時、「ふれあいの館」と副題がついていた『コンタクトホーフ』など、まさにその典型と言っていいただろう。ピナとヴッパタール舞踊団の初期の代表作と言える本作は、もう一つの代表作でピナ自身も踊る『カフェ・ミュラー』と同じように、舞台上に部屋がしつらえられている。ただし、『カフェ・ミュラー』がピナの生家だったゾーリンゲンの小さなホテルのカフェを模しているのに対して、『コンタクトホーフ』のそれは、まるで地方の小さな町の公民館のよう。ごていねいに緞帳の下りた舞台まであるのだが、ほとんどの動きはその舞台の前のフロアで展開される。この空間に、けっしてあか抜けてはいないけど、それなりにおしゃれをした男女が続々やってくる。同窓会？ と思いきや、上手と下手の壁の前に椅子を並べ、男女別々に座ってモジモジ。じゃ、合コンか婚活なの？ と思っているうちに、互いに服を脱いで大騒ぎしたり、客席に対して後ろ向きに座って、「水鳥の生態」のような映画を鑑賞した

り。男女2列になって、お面をかぶって行進してくるシーンの音楽は、映画『第三の男』のアントン・カラスのチター演奏で有名なあのメロディ。いや、それまで私たちにはあまり馴染みのなかった戦前のドイツのポピュラー音楽がふんだんに使われ、その後のピナ作品の音楽の幅広さを予見していると言っていいただろう。ちなみに、ピナの意を汲んで装置・衣裳を担当したのは、公私にわたってパートナーだったロルフ・ボルツィク。80年に死去した彼のあとを継いで衣裳デザインを担当しているマリオン・スイートーも「中古ドレス店で買ってくることもあるわ」と言っていたから、『コンタクトホーフ』の衣裳のどれもが非常に人間っぽいのはそのためか。

ピナ自身が『コンタクトホーフ』という作品を愛していたのは、後年、『65歳以上の男女によるコンタクトホーフ』、そして『14歳以上のティーンエイジャーによるコンタクトホーフ』という2バージョンのスピノフの作品を創っていることでも明

らか。特に3年前まで独自のツアー公演を行っていたほど人気の前者については、「何がきっかけで、思いついたのですか？」というこちらの問いに、「ベオグラード公演の時、ホテルに戻って遅い食事をとっていたら、年老いた人たちがバンド演奏をしたり踊ったりしてとても楽しそうだったのよ。だから私たちもやってみようと思ったの」。確かに、舞台がはねた後のピナたちの行動も独特で、本拠地ヴッパタールでは、ダンサーたちと古めかしいタンゴ・バーに出かけ、目をつむってタンゴを踊っていたピナの姿が忘れられない。

冒頭に紹介した例とは逆に、ピナはいつ好きになっても遅いということはない、というのが筆者の持論だ。何度も来日し、こんなに愛してもらった日本だけけど、まだまだ紹介されていない傑作——『トゥー・シガレッツ・イン・ザ・ダーク（暗闇の2本のたばこ）』を筆頭に——がいくつもある。『コンタクトホーフ』からまた新たなピナへの旅が始まると思うと、うれしくてたまらない。

『コンタクトホーフ』から始まる 新たなピナへの旅

文◎佐藤友紀（ジャーナリスト）

『コンタクトホーフ』© エー・アイ Photo © 飯島篤

ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団

1973年、ドイツの工業都市にあるヴッパタール・バレエ団の芸術監督にピナ・バウシュが就任、ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団と改称。ダンスと演劇を融合させた「タンツテアター」による斬新かつ衝撃的な話題作を次々に発表する。世界の舞台芸術に影響を与えたピナは2009年に惜しくも逝去。ピナの遺志を継ぎ舞踊団は精力的に公演を行っている。1986年以来たびたび来日公演も行い、彩の国さいたま芸術劇場では1996、99、2002、04年に続き、5回目の登場となる。

『コンタクトホーフ』© エー・アイ Photo © 飯島篤



『船と共に』 Photo © 池上直哉
(1996年/彩の国さいたま芸術劇場)

『七つの大罪/怖がらないで!』 Photo © 池上直哉
(2002年/彩の国さいたま芸術劇場)

公演概要

ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 『KONTAKTHOF —コンタクトホーフ』

日時：2014年3月20日(木) 開演19:00、
21日(金・祝) 開演15:00、22日(土) 開演15:00、
23日(日) 開演14:00
(上演時間/約2時間50分・休憩含む)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出・振付：ピナ・バウシュ
美術・衣裳：ロルフ・ボルツィク
出演：ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団

チケット(税込)
一般：S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円
学生：S席7,000円/A席5,000円/B席3,000円
メンバーズ：S席9,000円/A席6,300円/B席4,500円
発売日：一般12月1日(日) メンバーズ11月24日(日)

作曲家、三宅 純が語る ピナ・バウシュ

取材・文◎結城美穂子

パリを拠点に先鋭的な活動を続ける作曲家、三宅純。来日公演を行った『フルムーン』をはじめ、ピナ・バウシュ作品にいくつも楽曲を提供してきた。ピナ最晩年の5作に作品提供し、書き下ろしも手がけるほどピナとその作品に身近に関わってきた彼が、作曲家という立場で見つめ続けたピナとは。



Photo © Jean Paul Goude

—ピナ・バウシュとの出会いは？

2004年に、ヴッパタール舞踊団の音楽監督から唐突に「この曲はおそらく貴方のものだと思うが、舞台に使用したいので確認して欲しい」という電話がありました。ほどなく公演で来日したピナと出会い、彼らとの交流が始まりました。初めてピナに会った時、寡黙な佇まいの中に強靱な意思と深い感情の泉を感じました。その印象は今も変わることがありません。

—書き下ろし曲を提供した経緯は？

僕の知る限り、一部の例外を除いてピナは舞台の制作過程では音楽を固定せず、ほぼ無音かメトロノームだけで作品を構築します。そして最後に音楽監督が選曲したものをプレゼンテーションします。初日を迎えるまで振付も構成も変更を重ね続けるので、そうしないと物理的に間に合わないのです。自分の曲が選ばれたのは光栄でしたが、それが何作かに及ぶにつれ、もっと積極的に参加したいという想いを伝えたとこ、書き下ろしの依頼もくるようになりました。作曲にあたって、通常なら手がかりになる映像を観ることができるのですが、ピナの場合は何もありません。振付も構成もどんどん変わっていくので、最終的にどうなるか誰にもわからないのです。非常に漠然としたキーワードを元に作曲した記憶があります。自分の曲が使われた舞台を見て、見慣れたはずの光景に、突然新しい色と光を与えられた感じとでも言いましょうか、想像していなかった別の感情が生まれるのに驚きました。

—曲のどの部分が振付家をインスパイア

するとお考えですか？

それは決して一方的なものではありません。ダンスと音楽と絵画は言語中枢を介さずに表現されます。つまり複数の思念が交錯し同時進行しても良いわけですし、瞬間の即興的要素も反映されます。お互いが惹き付け合うのは当然ではないでしょうか？

—ピナから受けた影響はありますか？

ピナの作品のすごさは、言葉による説明を一切要さず、波動だけですべてを伝え切ってしまうことだと思います。僕はかねがね音楽もそうあるべきだと思っていました。長時間かけてひとつの作品を積み上げていく姿勢、ぶれない深い視線、感情の起伏を受け止めるキャパシティ……本当に素晴らしいアーティストでした。そんなピナがこの世にいるということ自体が精神的な支えにもなっていましたし、毎年6月にパ



「フルムーン」◎エー・アイ Photo◎飯島直人

リ公演にやって来るピナと会えるのが、本当に楽しみでした。ピナが亡くなり、パリにいる意味自体も見失ってしまった時期もあります。それくらい大きな存在でした。—これからもヴッパタール舞踊団とのコラボレーションはあるのでしょうか？

彼らと話して思うのは、ピナは個々のダンサーそれぞれに違う角度で接していたのだということ。だからダンサー達にとって、ピナは決してひとつの像を結んでいるわけではありません。ダンサーの数だけピナがいるのです。従ってピナの遺志を最優先する舞踊団の中にも、将来のあり方について色んな意見や展望があり、現段階で私からお伝えできる具体例はありません。

ただ！自分から提案できるコラボレーションはどんどんしていきたいと思っています。新譜『ロスト・メモリー・シアター act-1』には、『1980年』『天地』をはじめとするピナ作品で異彩を放っていたメヒティルド・グロスマンさんに参加して頂いています。凄まじい声の力です。

これからもヴッパタール舞踊団とのコラボレーションの方法を探っていきたいと思っています。

三宅 純 (みやけ・じゅん)

作曲家。パークリー音楽大学に学び、ジャストランベッターとして活動開始。作曲家としてCM、映画、アニメ、ドキュメンタリー、コンテンポラリー・ダンス等多くの作品に関わる。ピナ・バウシュ、フィリップ・ドックフレ、ロバート・ウィルソン、白井晃など舞台作品への参加も多い。主要楽曲を提供したヴィム・ヴェンダース監督作品『ピナ/踊り続けるいのち』は2011年ヨーロッパ・フィルム・アワード受賞、2012年アカデミー賞、英国アカデミー賞にノミネート。05年よりパリ在住。新譜『ロスト・メモリー・シアター act-1』を9/18にリリース。



【ザ・ファクトリー3】
さいたま
ゴールド・シアター

瀬山亜津咲

(ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団)

ワーク・イン・
プロGRESS 公開



ゴールドの素顔が覗く 8年目のプロフィール

文◎市川安紀 Photo◎Matron

あなたたちは、どんな人たちののですか。どこからそんなエネルギーが湧いてくるのですか。なぜそんなに進化できるのですか。結成から8年、1作ごとにただならぬ存在感を増すさいたまゴールド・シアターの舞台に触れるたびに、素直にそんな思いを抱いてきた。台詞が形づくる戯曲という「世界」に肉迫しようと切磋琢磨してきた彼らが、これまでとはまた違う形で自身と向き合う身体表現に挑戦している。演劇とダンスを融合させた「タンツテアター」の探求者、ピナ・バウシュの薫陶を受けた日本人ダンサー瀬山亜津咲との出会いは、彼らの可能性をさらに広げることになった。今回は劇場内すべてが表現の場となる【ザ・ファクトリー】の第3弾として、創作段階の作品を上演するワーク・イン・プロGRESS形式での公開である。

決められた振付を踊るというより、内面から湧き出る感情や個人の体験を取り入れて創作するタンツテアターの手法は、それぞれ厚みのある実人生を重ねてきたゴールドのメンバーたちにびたりとフィットする。彼らは語り、踊り、触れ合い、じゃれ合い、寝転がる。恋する喜びを身振り手振

りも交えてキラキラと謳いあげ、自らのルーツや真情を訥々と語り、遊び心たっぷりに得意技を披露し、時には青白い月光の下で内省的になる。デュエットダンスはムーディーに、そしてパワーみなぎる圧巻の盆ダンス！ 詩的にして私的なスケッチの連なりは、8年目を迎えたゴールドという集団の自画像だ。時を刻んだ手も足も顔も声も、その歴史も、すべてが表現につながる強力な武器となる。「どんな小さな動きでも、自分の内面から生まれたものがダンスだと思います。プロフェッショナルなダンサーではない彼らが真剣に集中して動こうとする時、逆に“動きの素”があらわになって本当に美しいんです」という瀬山の言葉通り、ひたむきな彼らの姿に激しく心揺さぶられた。

創作の現場ではメンバーにさまざまな質



問を投げかけ、その答えをもとにイメージを紡いでいった。「彼らが自己紹介してくれた時の輝き、私の心が震えた時の気持ちを大事にしました。私も素で彼らと向き合い、観察を続けるうちに、皆さんの癖や性格がわかってきて楽しかったですね」。一方で、表現者として鍛練を重ねたゴールドの蓄積が、素直な“自分の言葉”ではなく“台詞”のようになってしまったというハードルも、本番までに乗り越えた。「彼らはすぐオープンで、娘か孫かという世代の私が生意気なことを言っても大らかに受け止めてくださいました。それぞれが強い個性を持ちながら、群舞などではきちっとまとまる。蛭川さんがお選びになったゴールドのメンバーはさすがだなあ、と」。

このプロジェクトには続きがある。来年には装いも新たに、小ホールでの本公演が決定したのだ。「私自身が彼らから本当に刺激を受けました。もっと勉強し、感性を磨いて戻ってきたい」と決意も新たな瀬山。絆が深まった彼らの新展開を、首を長くして待ちたい。

●8月14日—16日
彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

dancetoday2013 doublebill

島地保武 + 酒井はな インタビュー

島地保武と酒井はながユニット〈アルトノイ〉を結成、dancetoday2013で新作を発表し、以後本格的にユニットとしての活動をスタートさせる。コンテンポラリー・ダンスの最前線にいる島地とクラシック・バレエを越えて充実した活動を続ける酒井の二人に、ユニット結成の意気込み、新作についてうかがった。

取材・文◎村山久美子(舞踊史家・評論家)

日本のバレエ界を代表するバレリーナ酒井はなと、世界のダンスシーンに風穴を開けた鬼才振付家ウィリアム・フォーサイスのカンパニーで最も信頼されるダンサーとして活躍する島地保武が、ユニット〈アルトノイ〉を立ち上げての公演。今公演を皮切りに、二人での活動も展開してゆくという。公私ともにペアのユニットの誕生である。

バックグラウンドの異なる二人

演出振付を主に担当する島地保武は、コンテンポラリー・ダンスを軸とするダンサーだ。山崎広太の公演活動や、コンテンポラリー・ダンスでは日本唯一の公立のカンパニーである、金森稯率いるNoismなどの活動に参加したのち、現在、ウィリアム・フォーサイスが率いるドイツのフォーサイス・カンパニーで、中心的メンバーとして活躍している。フォーサイスのもとでは、表現が外に発散される西洋人とは違って内部へと沈潜してゆく踊り方や、しっとりとした情緒が高く評価され、フォーサイスの作品のラストシーンの、美しい照明に

包まれた静謐を湛える踊りを任されるという。こういった外国人を魅了する日本的情緒に加え、さらに普遍的な、パートナーの酒井いわく「ピュアな心ゆえの踊りの透明感」が、島地の大きな魅力である。

酒井はなは、新国立劇場のプリマバレリーナとして、開場した時からバレエ団をリードし、フリーになった現在も、名誉ダンサーとして時折この劇場に招かれて踊っている。新国立劇場開場時に、古典作品の主演をロシアの稀有な名舞踊手、亡きナ

ターリャ・ドゥジンスカヤ等々に学んだことで、技や動きの美しさなど踊りが全面的にレベルアップし、かつ、表現の才能が、それ以前にも増して大きく開花した。かつて、演技力が大きくものを言う『ジゼル』の指導に新国立劇場にやってきたドゥジンスカヤにインタビューしたとき、「はなは私の

島地保武 (しまじ・やすたけ)

日本大学芸術学部演劇学科演技コース入学、加藤みや子に師事。山崎広太、上島雪夫、能美健志、鈴木稔、カルメン・ワナー等の作品に参加した後、2004～06年、金森稯率いるNoismに参加。06年、ウィリアム・フォーサイス率いる、ザ・フォーサイス・カンパニー(ドイツ・フランクフルト)に入団。日本での創作活動やワークショップにも、精力的に取り組んでいる。本プロジェクトより酒井はななどのユニット〈アルトノイ〉を始動、二人での共同創作を本格的に開始する。

〈アルトノイ〉特設サイト <http://www.altneu.jp/>

Yasutake Shimaji



都内スタジオで8月24日に公開されたワーク・イン・プログレス(会場:アーキタンツ)



公演概要

dancetoday2013 ダブルビル 『関かおり 新作』『島地保武+酒井はな(アルトノイ) 新作』

日時:10月18日(金)開演19:30、19日(土)開演15:00、20日(日)開演15:00
会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
演目:『関かおり 新作』
振付・演出/関かおり
出演/荒 悠平、岩淵貞太、後藤藤う、菅 彩夏、関かおり
『島地保武+酒井はな(アルトノイ) 新作』
演出/島地保武
振付・出演/島地保武、酒井はな

チケット(税込) 好評発売中
一般:4,000円(学生2,000円)
メンバーズ:3,600円

言うことをすぐにとてもよく理解してくれて、期待通りの表現をしてくれる」と目を細めながら語っていたのをよく覚えている。

こうして、若手の時代に新国立劇場での『白鳥の湖』や『ジゼル』などの古典バレエ作品で大成功を収め、日本の代表的バレリーナと認められたのち、酒井の稀有な感情表

現が最大限に発揮される演劇的なバレエ、『マノン』、『ロミオとジュリエット』等で観客を圧倒することにより、彼女は押しも押されぬ日本有数の、そして、新国立劇場に招かれてくる外国の世界的スターをも凌駕するほどの女優=バレリーナになった。

そのドラマティックなバレエの名手が、近年コンテンポラリー・ダンスにしばしば取り組み、好評を博している。コンテンポラリー・ダンスにはあまり感情表現を行わず淡々と踊った方がいい作品もあるが、酒

井には、表現力がものを言う、そこはかかない情感を漂わせるコンテンポラリー・ダンス作品が似合う。パートナーの島地も、酒井の踊りのソウルフルな面、動きだけで舞台上に様々な情景を描き出す特質に大きな魅力を感じており、新作の舞台でもそんな彼女の姿に出会いたいと語っている。

上演する新作の構想

このような実力派が共同振付をしている今回の作品で、まず二人が大切にしているのは、奇をてらった振付よりも、本能的な踊りの衝動から生まれた動きを緻密に積み上げて、とことん踊り込んで究極のクオリティにまで磨き上げること。それゆえ、作品の後半は、古典バレエ作品で言えば踊りの最大の見せ場となるグラン・パ・ド・ドゥ(主役男女の二人の踊りで、男女のデュエットで主に女性の美しさを見せる「アダージョ」、男女それぞれのソロである「ヴァリエーション」、男女二人で大技を見せる「コーダ」から成る形式)のようなシーンを創って、デュエットやソロの充実した踊りを見せたいと考えているという。まさに、彼らのような、極めて優れたダンサーでなければできない創作である。

その一方で、少年のように好奇心に満ち豊かなアイデアをもっている島地の演出力を生かそうとしているのが前半。二人にお話をうかがった7月末は、まだあれこれ演出の可能性を模索している段階だったが、おそらくここに書かずに舞台でのお楽しみにとっておいた方がよいような、サプライズをいろいろ企んでいる。

「あらゆる生命へのいとおしさ、その生命への賛歌」をダンスにしたいという二人のこのような新作は、きっと、やさしさに満ちた美しく尊いものになるに違いない。

酒井はな (さかい・はな)

クラシック・バレエを仙佐俊明に師事。14歳で牧阿佐美バレエ団公演でキュービッド役に抜擢され一躍注目を浴びる。18歳で主役デビュー。以後主な作品で主役を務める。新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、柿落とし公演で主役を務める。コンテンポラリー作品やミュージカルにも積極的に挑戦し、クラシックを越えて類稀な存在感を示している。進化し続ける技術、表現力、品格ある舞台上で観客を魅了する、日本を代表するバレエダンサーの一人。新国立劇場バレエ団名誉ダンサー。

Hana Sakai



マチルド・モニエ 初来日公演

フランスのヌーヴェル・ダンスの隆盛の中、キャリアをスタートさせたマチルド・モニエ。現在モンペリエ国立振付センターの芸術監督を務めるフランス・ダンス・シーンの第一人者だ。彼女の初期の代表作2作品を日本で披露する。

取材・文◎上野房子（ダンス評論家） Photo◎ Marc Coudrais

ダンサーとしての バックグラウンド

——モニエさんがダンスの世界に足を踏み入れた1970～80年代、フランスのヌーヴェル・ダンスは躍進の一途にありました。当時の様子を教えてください。

私は16歳の時にダンスを習い始め、その後、移り住んだりヨンでプロダンサーとして踊り始めました。リヨンにメゾン・ド・ラ・ダンス（フランス各地に設立され、ダンス隆盛の拠点となったダンスセンター）がオープンし、一気にヌーヴェル・ダンスが花開いた時期でした。20以上のカンパニーが活動していたのでしょうか。1980年代の初頭のことです。私はその真ただ中に飛び込み、次々とワークショップに参加し、様々な振付家と仕事をし、ダンスを発見したのです。

——そして、アンジェ国立現代舞踊センターに入所。芸術監督は、マース・カニンガム舞踊団の中心的なダンサーだったヴィオラ・ファーバーでした。

彼女との出会いから、ほんとうに多くを吸収しました。まず、テクニクを徹底的に叩き込まれた。毎日、レッスンを2回、リハーサルを数時間。1年後には、アメリカのダンサーと同じレベルに達したと思います。彼女を通して音楽を学んだことも、

プラスになりました。いかに音楽を理解し、いかに使いこなすのか。彼女は大学で音楽を専攻したことのある、名ピアニストでしたから。

——1984年にニューヨークのマース・カニンガムのスタジオに留学します。

1年間の奨学金を得て、ファーバーのテクニクの根幹にあるカニンガム・テクニクを自分自身で体験したかったのです。抽象的なダンスを踊ることに特化した、精密なトレーニングです。平行して、ニューヨークのアートシーンを見尽す意気込みでした。ジム・セルフやロバート・ウィルソン等の振付家と仕事をすることもあり

ました。ニューヨークでの経験は、アーティストとしての自分を形成する重要なステップになりました。

——当時のニューヨークの雰囲気は？

世界中からアーティストが集う、エキサイティングな場所でした。トリシャ・ブラウン、カニンガム、メレディス・モンク、マドンナ、ロバート・ウィルソン、リチャード・フォアマン、キャロル・アミタージュ、ダグラス・ダン、ルシンダ・チャイルズ等が、ひっきりなしに創作をしていたんですよ。ヒップホップの芽生えも目の当たりにしました。「自分がいるべき場所にいる！」という興奮を感じる日々でした。

作品創作の背景

——ニューヨーク滞在中に、カニンガム・スタジオで共に勉強していたジャン＝フランソワ・デュルルさんとの共作で『ピュディック・アシッド』（「遠慮がちな、辛辣な」の意）を発表。リバイバル版の映像を見ましたが、エネルギッシュで飄々としていながら、どこかシニカルな視線を感じさせる作品です。

ダンサーは振付に関与せず、踊ることに徹するというアメリカの流儀に馴染めず、ある日、彼と創作を始めました。当時のニューヨークでは抽象的なダンスが主流だったけれど、私達はそんな潮流にも反抗してみたかった。音楽との新たな関係を探り、音楽のリズムも歌詞も作品に取り込みました。衝突し合う、生意気盛りの子供のような私達自身の関係に根ざした部分もあります。

——アメリカ抽象主義の硬直を揺さぶろうとしたと論評されたそうですが、同作でも

翌年の作品『エクスタシス』でも、クルト・ワイルの音楽が使われています。

当時、私はドイツ文学に関心があり、ジャン＝フランソワはピナ・バウシュのヴッパタール舞踊団に入団する直前。つまり、二人ともドイツに傾倒していたので、ドイツ人であるワイルが作曲した『七つの大罪』と『三文オペラ』を使って、独自のスタイルを模索しました。その結果、アメリカのコンテンポラリー・ダンスと一線を画す作品が誕生したといえますね。

——レパートリーとして定着するコンテンポラリー作品は多くはありません。なぜ、初演から30年近くを経た2作品を再演されたのですか。

新作を追い求めるだけでなく、ダンスの記憶を築き、歴史を踏まえて作品に向き合うことは重要です。私自身、ニジンスキーの『春の祭典』や『牧神の午後』の復刻を見て、衝撃を受けましたし、昨年、ヴッパタール舞踊団がピナ・バウシュの回顧展を

ロンドンで開催したように、一人の振付家の仕事を振り返ることができるなんて、素晴らしい経験だと思うのです。

——日本滞在中、モニエさんは彩の国さいたま芸術劇場ほかでワークショップを行います。日本のダンサーと何を共有してくださるのでしょうか。

私の作品の一部を踊ってもらつつもりです。一方的に振付を提供するのではなく、新たなダンサーと出会い、新たな試みをし、新たな作品を創作するプロセスを豊かなものにしたいと思っています。

マチルド・モニエ

振付家。フランス・ダンス界の第一人者。マース・カニンガム・ダンス・カンパニーの主要メンバーの一人であったヴィオラ・ファーバーのもとで学ぶ。常に新しい変化を求め、サプライズを提供してくれるマチルド・モニエは、何より実験としてのダンスを探求している。1994年にモンペリエ国立振付センターの芸術監督に就任し、以来、異なる芸術分野のアーティストとのコラボレーションを数多く行っている。



【エクスタシス】



【ピュディック・アシッド】

公演概要

マチルド・モニエ 『ピュディック・アシッド』『エクスタシス』

日時：11月9日(土) 開演15:00（上演時間約70分／途中休憩含む）
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
振付：マチルド・モニエ、ジャン＝フランソワ・デュルル
出演：ソニア・ダルボワ、ジョナタン・ブランラ

チケット(税込) 好評発売中
一般：S席3,500円／A席2,500円(学生2,000円)
メンバーズ：S席3,200円

共同主催：アンスティチュ・フランセ日本
フェスティバル/トーキョー13 連携プログラム

【関連企画】

マチルド・モニエ特別上映会&対談

ドキュメンタリー映画「ex.e.r.ce」(2005)ほか作品抜粋上映の後、ダンス評論家の上野房子氏を迎え、マチルド・モニエとの対談を行います。
※フランス語・日本語(逐次通訳付)

日時：10月28日(月) 開演19:00【入場無料／予約制】
会場：アンスティチュ・フランセ東京 エスバス・イマージュ

マチルド・モニエによるマスタークラス

日時：10月29日(火) 16:00-20:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

※詳細・各申込み方法は財団 HP <http://www.saf.or.jp> をご覧下さい。

ヴェルディ生誕 200年記念

Verdi Gala Concert

ヴェルディ・ガラ・コンサート

彩の国さいたま芸術劇場でのヴェルディ・イヤーのお祝いは、日本の「ヴェルディ歌い」が集まったガラ・コンサート。《リゴレット》、《アイダ》、《ドン・カルロ》などの耳に馴染みのある美しいアリアがずらり。気軽にヴェルディの作品を楽しめる。

Photo ©青柳 聡



取材・文◎片桐卓也（音楽ライター）

1813年、北イタリアの小さな村に生まれたジュゼッペ・ヴェルディは、若い時代の苦闘を経てオペラ作曲家として成功し、19世紀の音楽の歴史に燦然と輝く星となった。同年生まれのドイツ人リヒャルト・ワーグナーの作品と合わせ、生誕200周年を迎えたこの21世紀でも、彼らの書いたオペラは世界中の歌劇場で中心的なレパートリーとなっている。そのヴェルディの傑作の数々の中から、選りすぐりのオペラ・アリアをお届けするのが「ヴェルディ・ガラ・コンサート」だ。日本を代表する「ヴェルディ歌い」の歌手の面々が次々とヴェルディの代表作を披露する、とても贅沢なコンサートである。

求められる、役に合った「声の色」

《リゴレット》の「女心の歌」などを披露するテノールの福井敬はヴェルディの音楽の魅力をこう語る。

「それまでのイタリアのオペラ、例えばロッシーニやベッリーニなどと比べると、ヴェルディの書いた音楽には、どんな人物であれ、人間性のドラマが強く感じられます。愛や恋を歌うシーンでも、その背景となっている状況を、それぞれの登場人物が必ず背負って歌わなければならない。だからそれを歌う歌手は、単に技巧的に上手い、声が良い、というような条件だけでなく、それぞれのキャラクターに合った「声の色」が求められます。それを表現するのが歌手の使命だし、そこにドラマを感じるから、聴き手も感動を覚える。そ

れがヴェルディの音楽の魅力でしょう」

ワーグナーも歌いこなすソプラノの横山恵子はこのガラ・コンサートで《ドン・カルロ》のエリザベッタ、《アイダ》のアイダなどを歌う。

「福井さんのおっしゃった通りで、ヴェルディの音楽はとにかく要求が多いです。ソプラノの声域でも上から下まで、すべての音域できちんと歌えなければならないし、中音域では表現力を求められる。そのキャラクターに合った「声の色」が求められますね。だからこそ、やりがいのある音楽だし、そのキャラクターに自分を合わせて行くという楽しみもあります」

音楽的密度の濃いコンサート形式

彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールは客

席数約600。その音響の中でヴェルディのオペラ・アリアの数々が歌われるのは、とても楽しみである。

「他に、バリトンの福島明也さんとメゾソプラノの清水華澄さんも出演されますが、それぞれのソロに加えて、ソプラノとメゾ、テノールとバリトンのデュオ、あるいは三重唱などもプログラムに加えようと考えています。ヴェルディの作品はほんとうに傑作ばかりなのですが、その中でも特に素晴らしい音楽を集めたコンサートになります」

と福井。バリトンの福島は《椿姫》のジョルジュ・ジェルモンのアリア「プロヴァンスの海と陸」を歌うほか、福井と《ドン・カルロ》の名シーンのひとつであるドン・カルロとロドリゴの二重唱を歌う。横山もこう続ける。

「演出付きのオペラ上演とは違い、純粹に歌に集中しながら演奏するコンサートの場合は、

より音楽的な密度が必要かもしれませんね。DVDを観ているような感じではなく、声だけでドラマが感じられるような、そんな表現が求められると思います。今回は日本を代表するヴェルディ歌いの方々と共演できるので、その中でどんなコラボレーションが出来るのか、とても楽しみです」

その横山は、メゾの清水と《アイダ》の中のアイダとアムネリスの二重唱「お前の祖国の軍隊は」を披露し、《ドン・カルロ》のエリザベッタのアリア「世のむなしさを知る神」を歌う。

「エリザベッタは実はヨーロッパ・デビューした時に歌った役でした。ドイツの歌劇場だったのでドイツ語で歌ったのですが、それでも20回も上演で歌った役なので、その音楽はすっかり自分の中に入り込んでしまった感じがします。今回はもちろんイタリア語で歌う訳ですが、エリザベッタの高貴な心、運命に翻弄される苦しみには自然に共感していくことができると思います」

この他にも、メゾの清水が《イル・トロヴァトーレ》のアリア「重い鎖につながれて」を歌うなど、ヴェルディを代表する作品の主要なアリアがたくさん入っているコンサートだ。まだオペラを詳しく知らない、ヴェルディの音楽を知らないという方がいたら、こうした素晴らしい歌手の響宴でその音楽の一端にふれ、さらにそこからオペラ全体を聴いてみる、という楽しみ方もできると思う。オペラは確かに取っつきにくいものだが、このヴェルディの熱い音楽に触れれば、その印象もかなり変わるだろう。



横山恵子（よこやま・けいこ）ソプラノ

東京音楽大学卒業、同大学院研究生修了。92年渡欧、独バイエルン州立コープルク歌劇場にて《ドン・カルロ》エリザベッタでヨーロッパデビュー。ヨーロッパの劇場でブッチェリ、ヴェルディ作品を中心にタイトルロールを歌う。本格的な日本デビューは、96年小澤征爾指揮による《蝶々夫人》タイトルロール。東京音楽大学教授。二期会会員。

上演アリアをさくっと予習

《ドン・カルロ》より「世のむなしさを知る神」(ソプラノ)

(あらすじ) 16世紀スペインが舞台。国王フィリッポ2世の王子ドン・カルロはフランスの王女エリザベッタと婚約していたが、エリザベッタは政治的理由で父王に嫁ぎ王妃となってしまう。思いの報われぬドン・カルロ、故国のため意に沿わぬ結婚を続けるエリザベッタ、愛されぬことに苦悩する国王、ドン・カルロを助けたい王の忠臣ロドリゴと、登場人物たちはままたぬ運命をかかえ、物語は悲劇へと進む。

ドン・カルロとの別れの時に、故国フランスやドン・カルロへの愛など、これまでの思いを胸に歌うソプラノを堪能できる大アリア。

《リゴレット》より「女心の歌」(テノール)

(あらすじ) 16世紀、北イタリアの領主マントヴァ公爵は、大変なプレイボーイ。体に障害があるためしかたなく宮廷の道化師を仕事としているリゴレットは、大切に育てている一人娘ジルダをマントヴァ公につけたく汚されてしまう。リゴレットは復讐を誓うが……。

名曲ぞろいのこの作品の中でも、マントヴァ公の享楽主義ぶりがよくわかるひととき美しい曲。

《ドン・カルロ》より 二重唱「我等の魂に友情と希望を」(テノール&バリトン)

国王フィリッポ2世の信頼の厚いロドリゴとドン・カルロが義兄弟となることを誓って歌う二重唱で「友情の二重唱」とも呼ばれる。

《アイダ》より「お前の祖国の軍隊は」(ソプラノ & メゾソプラノ)

(あらすじ) 古代エジプトが舞台、壮大なスケールのスペクタクル・オペラ。ソプラノ（敵国エチオピアの王女アイダ、今は奴隷）とテノール（青年將軍ラダメス）の恋路を邪魔するメゾソプラノ（エジプトの王女アムネリス）、という三角関係はオペラの常道。

アイダはラダメスを愛していることが王女アムネリスにばれてしまい、アムネリスは奴隷の分際で、と怒りをあらわにする。

公演概要

ヴェルディ生誕 200年記念
ヴェルディ・ガラ・コンサート

日 時：11月10日(日) 開演15:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出 演：横山恵子(ソプラノ)、清水華澄(メゾソプラノ)、福井敬(テノール)、福島明也(バリトン)、谷池重幸(ピアノ)
曲 目：《ドン・カルロ》より「世のむなしさを知る神」(ソプラノ)
《イル・トロヴァトーレ》より「重い鎖につながれて」(メゾソプラノ)
《リゴレット》より「女心の歌」(テノール)
《椿姫》より「プロヴァンスの海と陸」(バリトン)
《ドン・カルロ》より二重唱「我等の魂に友情と希望を」(テノール&バリトン)
《アイダ》より「お前の祖国の軍隊は」(ソプラノ & メゾソプラノ) ほか

チケット(税込) 好評発売中
一 般：正面席4,500円/バルコニー席3,500円(学生1,500円)
メンバーズ：正面席4,100円



福井 敬（ふくい・けい）テノール

国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁在外派遣研修員等により渡伊。二期会《ラ・ボエーム》ロドルフォの鮮烈デビュー以来、輝かしい声、幅広い表現、情感溢れる演技によりわが国トップ・テナーとしての地位を確立。二期会会員。

福井敬.net <http://www.fukuikei.net/>

説得力のある演奏集団

— BCJ を好きになったきっかけは？

J.S. バッハ作曲の教会カンタータはどういう音楽なんだろう？ とまだカンタータになじみのない頃に思ったんです。BCJの定期演奏会のカンタータを聴きに行くようになって、素敵な曲、特にアリアがいっぱいあることを知りました。ティンパニやトランペットが入る華々しいものや、弦楽中心のものもありバラエティに富んでいて、毎回充実していました。それまでクラシック音楽は知っている曲を聴き比べるというイメージが強かったのですが、教会カンタータは数が多いので、新しい曲に出会う喜びもある。またどれも名曲で、名人たちによる名演奏なんです。彼らをまとめあげる鈴木（雅明）さんはすばらしいと感じて聴き続け、今に至っています。

— BCJ の特徴は？

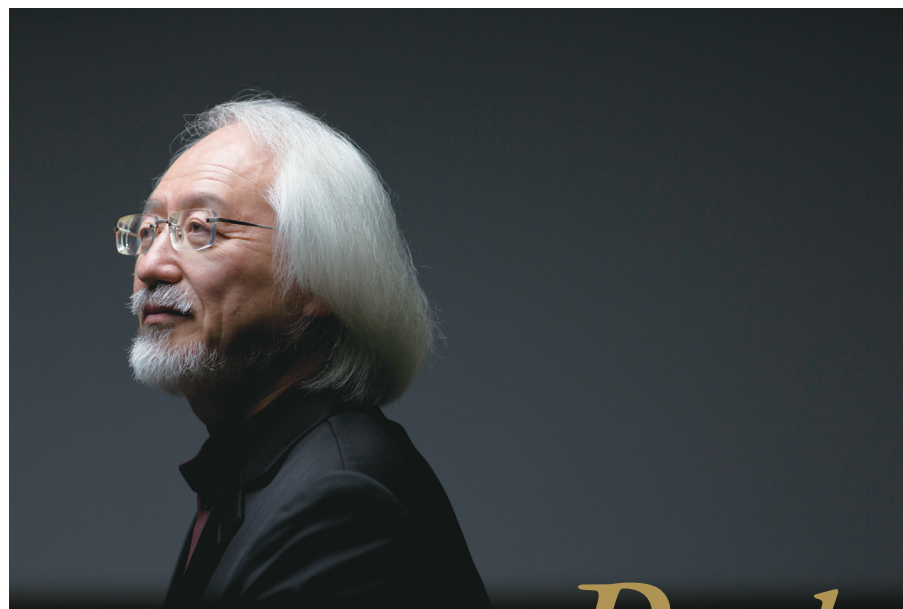
音楽を作る上での求心力があると思います。上昇気流が自然にメンバーから吹いてこないという演奏にはならないと思うのですが、そういう求心力と説得力を鈴木さんはあわせ持つ人です。昔のオーケストラの指揮者は「俺の言うことを聞け！」という専制君主のようなカリスマが多かったと思うのですが、鈴木さん

は全然違います。どうしてこの曲がこう演奏されなければならないのかという理由を、メンバーに強いることなく納得させることができるんです。

《マタイ受難曲》、《ブランデンブルク協奏曲》といったバッハのだれでも知っている曲をBCJが演奏すると、彼らでしか出せない音や表現を感じます。楽譜に書かれている音符は

同じなのに、演奏そのものが持つ、聴く人へ向けた説得力がすごいです。各セクションに名人がいるし、通奏低音は鈴木秀美さんが担当しているから盤石です。ライブツィヒの聖トーマス教会にいたバッハにとって憧れだったであろう、ドレスデンの豪華な宮廷オーケストラみたいですね。

バッハの時代のオリジナル楽器を使用した



鈴木雅明 Photo © Marco Borggreve

Masaaki Suzuki *Bach Collegium Japan*バッハ・コレギウム・ジャパン
モーツァルト《レクイエム》朝岡 聡、
バッハ・コレギウム・ジャパンを
熱く語る

12月にモーツァルトの《レクイエム》を演奏するバッハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）。フリーアナウンサーの朝岡聡氏は、コンサート・ソムリエとして演奏会の司会のほか、企画構成も手がけている。BCJに関しては、毎回定期演奏会に足を運び、結成以来ずっと応援している熱心なファン。朝岡氏にBCJの魅力、演奏の聴きどころを語っていただいた。

取材・文◎結城美穂子 Photo◎宮川舞子



演奏は、ただ演奏の達人な人を集めれば出来る上がるというものではなくて、バッハの言葉を知らなければならない。外国語を話す時に文法を知る必要があるのと同じで、バッハの音楽を演奏する時、バッハの言葉を楽譜から感じとることができなければならないんです。BCJを結成した頃、鈴木さんはそれをおそらく毎回メンバーに説明していたのだと思います。結成から10年位の頃に、これは鈴木さんがおっしゃっていたのですが、だんだん説明しなくてもメンバーはわかるようになってきて、ここはこういうふうに演奏した方がいいのでは、と彼らからプラスαが出てきた。それを今度は鈴木さんが取捨選択をしまとめていくことができるようになったと。そうやって演奏の完成度が高まってきたのだと思います。

“ジャパン”が重要

— BCJのすごいと思うところを教えてください。

BCJには、日本人特有の繊細さ、丁寧さ、深い精神性、理詰めで組み立てていくような奥行きと深さがあると思います。まさにそこが“ジャパン”なんです。海外に演奏に行くと、こんなに深い表現があるのかとみなさんびっくりするんです。BCJの“ジャパン”の部分というのは、技術立国だった高度経済成長時代の日本のような、他を寄せつけないものがありますね。

まじめでストイック、繊細、けれども地味ではない。ハツとするような深さを感じさせる。そこがBCJを世界で唯一の存在にしているのだと思います。

モーツァルト＝古典派の作品を演奏するということ

— 今回の演奏曲は、バッハではなくモーツァルトの作品です。

待ってましたという感じですね！ BCJは演奏曲目を音楽史に沿って選んできています。とても理にかなったやり方だと思います。これまでもヘンデルのオラトリオなどバッハ以外の、あるいはバロック以外の作品も取り上げてはいますが、今回はいよいよ古典派にきた、という気持ちのごとさら強いです。さらに時代は異なりますが、《レクイエム》は宗教曲です。バロックの宗教曲を演奏してきたBCJが、どのような古典派の宗教曲を作り上げるのでしょうか。

モーツァルトはオーストリア出身ですから、イタリアでなくアルプスの北側です。そういう意味でも合点がいきます。BCJで弾けた明るいイタリアの音楽を聴きたいとはあまり思わない。全体がイタリアではなくて、ストイックな雰囲気の中、うまい具合に個人技でイタリアの空気が感じられる瞬間がある、それがBCJの演奏です。

今までずっとバッハの作品演奏がメインだったので、モーツァルトの作品はどう演奏してくれるのでしょうか。特に今回の演奏に古典派を持ってきたと意識するのは、鈴木さんとBCJが変化していく節目の時期なのかも感じているということがあるのかもしれない。これから時代をどのあたりまで下げていくのか。あるいは引き続き18世紀の作品を取り上げ、地域を広げていくのか。聖なる世界のイメージが強かったけれど浮き世の音楽を演奏するのか、それはどのように？ というように見守ってきた人たちにとっても、今回の公演はこれからのBCJを暗示するようで興味深いです。

公演概要

バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

日時：12月7日（土）開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：鈴木雅明（指揮）、キャロリン・サンブソン（ソプラノ）、マリアンネ・ペアーテ・キーラント（アルト）、アンドリュー・ケネディ（テノール）、クリスティアン・イムラー（バス）、
バッハ・コレギウム・ジャパン（合唱・管弦楽）
曲目：モーツァルト／証聖者の荘厳な晩課（ヴェスプレ）ハ長調 KV 339
モーツァルト／レクイエム 二短調 KV 626

チケット（税込）好評発売中
一般：正面席8,000円／バルコニー席7,000円（学生3,000円）
メンバーズ：正面席7,200円



ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団 室内楽の楽しさが凝縮した 結成25年の 熟成アンサンブル

日頃同じオーケストラの木管奏者としてオーケストラの音作りに進んでいるメンバーが集ったアンサンブル。木管楽器が主役の音楽を存分に聴かせてくれる。

文◎飯尾洋一（音楽ライター）

多彩な音色のパレットを持つ楽器群が一堂に会して一つのサウンドを織りなすのがオーケストラだとするなら、木管五重奏はその音楽セクションのミニチュア・バージョンということになるだろうか。オーケストラのサウンドが持つ豊かで馥郁とした香りを放ちつつも、室内楽としての親密な対話性にも富んでいるという「一粒で二度おいしい」のが木管五重奏の魅力だ。

まもなく来日するベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団は、世界最高峰のオーケストラであるベルリン・フィルのメンバーたちによるアンサンブルである。1988年に結成され、25年にわたる活動歴を誇る。

メンバーのうちファゴットを除く4人は、いずれも80年代半ばからベルリン・フィルに在籍して、アンサンブルの屋台骨を支えてきたメンバーだ。ベルリン・フィルも他のオーケストラと同様に年々少しずつ楽団員の顔ぶれが変わっているが、彼らはカラヤン時代のベルリン・フィルを経験している貴重なメンバーである。カラヤン時代の重厚で豊かなサウンドも、現在の首席指揮者サイモン・ラトルによる磨きぬかれた鮮やかなサウンドも、ともに彼らが生み出した「ベルリン・フィルの響き」なのだ。

心憎い演奏曲のセレクト

曲目はハイドン、モーツァルトといった古典派の音楽と、イベール、ミヨー、ヒンデミットの20世紀前半の音楽が披露される。

ハイドンの《ディヴェルティメント》はアマチュア・プレーヤーにとってはなじみ深い定番曲だろう。かつてチャレンジしたことがあるという方も多いのでは。この名作を世界最高水準の技術で演奏するとどうなるか、というのが聴きもの。また、プレーヤーでなくとも、第2楽章の「聖アントニーのコラール」のメロディには聴き覚えがあるのではないだろう

うか。ブラームス作曲の《ハイドンの主題による変奏曲》に登場する「ハイドンの主題」とはこのメロディのことだ。

ミヨーの組曲《ルネ王の暖炉》も、このジャンルには欠かせない名曲である。ルネ王とは15世紀に南仏プロヴァンス地方を治めた名君のこと。領土のなかで冬になっても暖かなエクサン・プロヴァンスを王が気に入っていたことから、人々はこの地を親しみを込めて「ルネ王の暖炉」と呼んだ。同地に生まれたミヨーが、故郷の情景を生き生きと描く。

最高の名手たちによる、精妙で鮮やかな名演を期待したい。

公演概要

ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団

日 時：9月28日(土) 開演17:00
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 出演：ミヒャエル・ハーゼル(フルート)、アンドレアス・ヴィットマン(オーボエ)、ヴァルター・ザイファルト(クラリネット)、ファーガス・マクウィリアム(ホルン)、マリオン・ラインハルト(ファゴット)
 曲目：ハイドン/ディヴェルティメント 変ロ長調
 モーツァルト(ミヒャエル・ハーゼル編)/自動オルガンのための幻想曲 KV 594
 モーツァルト(ミヒャエル・ハーゼル編)/セレナーデ ハ短調 KV 388
 イベール/木管五重奏のための3つの小品
 ミヨー/組曲《ルネ王の暖炉》
 ヒンデミット/5つの管楽器のための小室内音楽 作品24-2

チケット(税込) 好評発売中
 一般：4,500円(学生2,000円)
 メンバース：4,100円

今、見ておくべき若手落語家たち

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～若手落語家競演会

季節のおなじみ、彩の国さいたま寄席の秋の四季彩亭は、イキのいい若手落語家競演会！
 今、脂ののっている人気の若手たちを、この機会にお見逃しなく。

文◎木下真之（演芸ライター）

注目の若手落語家で、筆頭に名前が挙がるのが柳家三三だ。数々の賞を総ナメにする一方で、落語映画ではジャニーズ俳優に落語を指導し、落語漫画の監修も手がけてきた。マスコミからの注目度も高く、メディアへの出演も多い。



やなぎや・さんざ 1974年生まれ。93年柳家小三三に入門。2006年真打昇進。

そんな三三落語の魅力は、登場人物の心情を表す豊かな表現力にある。嬉しい表情、驚きの表情、悲しみの表情などを、深みのある声に乗せてストレートに伝えてくれる。三三が身を置く柳家一門の教えは「登場人物の気持ちになりきり、観客にそれを想像してもらうこと」とされているが、三三はその教えを忠実に守り、自己をことさら主張することなく、落語の持つ本来の魅力を最大限に引き出すことに徹している。そのため、笑いたっぷりの滑稽から、人間の機微を描いた人情、怨念のこもった怪談まで、どれをとっても奥が深いのだ。しかも、講釈の心得があるため、骨太のストーリーを抑揚たっぷりに聞かせる力量も備えている。「黒紋付きが似合う落語家になりたい」と公言する三三の落語はまさに王道。三三の語り身に身を委ねるだけで、江戸の景色

が目の前に浮かんでくる。

隅田川馬石は、昭和の名人・古今亭志ん生も過去に名乗っていた由緒ある名前を受け継いだ。鼻の下にある大きなホクロがトレードマークで、かなりの色男。昨年、文化庁芸術祭大衆芸能部門新人賞という大きな賞を受賞し、急速に力を付けている。



すみだがわ・ばせき 1969年生まれ。93年五街道豊助に入門。2007年真打昇進。

馬石の魅力は、きれいで高く透き通った声にある。おだやかで、やんわりと語る口調は、どんなアロマテラピーよりも癒し効果が高い。子供や動物を演じればとことんかわいらしく、女性を演じればしとやかに、江戸っ子を演じれば人のよさがにじみ出る。そうした語り口が長編の人情劇にも反映され、いつまでも聞き続けても疲れない馬石ならではの落語につながっているのだろう。他の落語家が手がけない演目にも積極的に挑戦す

る野心も併せ持つ注目の落語家だ。

坊主頭に整ったマスクが特徴なのが古今亭文菊。笑福亭鶴瓶から「江戸時代のイケメン」と呼ばれたように、古風な佇まいと身のこなしが目を引く。二ツ目時代から落語の技量を評価する声は高く、昨年、先輩を28人抜いて真打に昇進したばかり。高校、大学と学習院という華麗な経歴の持ち主で、父親が故・市川團十郎と同級生。息子の海老蔵とも小さいころから交流があったと言うから本物だ。



ここんてい・ぶんぎく 1979年生まれ。2002年古今亭圓菊に入門。12年真打昇進。

そんな育ちが芸にも現れるのか、文菊の演じる女性は色気がたっぷり。しっかりもののおかみさん、男を手玉にする遊女、焼きもち焼きの女房などを巧みに演じ分ける。派手な芸風ではないが、いぶし銀の芸で今後の落語界を引っ張っていく若手のひとりであることは間違いない。

公演概要

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～若手落語家競演会

日 時：10月4日(金) 開演19:00
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 出演：柳家三三、隅田川馬石、古今亭文菊、桂宮治、春風亭昇也
 チケット(税込) 好評発売中
 一般3,000円 メンバース2,700円
 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

Naomasa Musaka

俳優 六平直政

一度見たら忘れられない風貌と辺りに轟く大きな声で強烈な印象を残す六平直政。蜷川幸雄作品の常連でもあり、稽古場では賑やかなムードメーカーとして知られる。山あり谷ありの役者道、その節目節目で大切な「師」たちとの出会いがあった。

取材・文◎市川安紀



「今でも役者は向いてないと思ってるよ」

小さい頃から絵を描いたり、手を汚してモノを造ることが好きでね。ムサビ(武蔵野美術大学)の彫刻科に入った。そこで出会ったのが彫刻家の篠田守男先生。無理やり弟子にしてもらって、俺も彫刻家になるつもりだったんだ。毎日現代展に最年少で入選したこともあるんだよ。

ところが当時付き合ってた彼女が唐十郎のファンで、一緒に状況劇場の芝居を観に行くようになってね。ある日、篠田先生が状況の求人広告を新聞で見つけて、「ロッペ君、芸能の分野に向いてそうだから受けてみたら？」って勧めるわけ。演技なんてやったことなかったけど、受けてみたら受かった。同期に佐野史郎とかがいて、一足先に入ってたのが金守珍だった。

食うや食わずに救いの手

もともとは教室でみんなの前に出て喋ると耳が真っ赤になるような子供だったけど、どこかで吹っ切れたんだろうな。状況の若手公演で初めて主役をやった『少女都市からの呼び声』は忘れられないね。でも生活は苦しくて、バイトはそれこそ

何十種類とやったよ。

劇団には9年ほどいて、その後、金守珍たちと新宿梁山泊を旗揚げしたんだ。川村毅や渡辺り子(当時)がホンを書いてくれて、俺が主演でね。

ところが、やっぱり食えないのは変わらない。俺も30代半ばになって子供も生まれてたし、いよいよ役者を辞めようと思ってた。そんな時に柄本明さんの誘いで東京乾電池の事務所に入れてもらって、徐々に食べるようになったんだ。だから柄本さんは恩人だよ。



幼少期、裸に前掛けで三輪車の勇姿！

演出助手のほかに役者もやらされて、俺らと同じ舞台に立ってたんだよ。

でも蜷川さんは優しくしてね。その後どんどん大劇場で演出するようになったけど、お金がない俺たちを必ずゲネプロ(舞台稽古)に呼んで、無料で見せてくれたの。あの優しさとエネルギーは今も全く変わらないね。

唐十郎の言葉

そうやっていろんな人との出会いがあって今があるけど、いまだに自分では役者に向いてないんじゃないかと思う。俺たちの世界って、他人が評価を決める世界でしょ。スポーツみたいにハッキリと結果が見えるわけじゃないから難しい。でも「向いてない」と思う、危うい気持ちの方が大事かもしれないね。59歳じゃ、転職もできないしさ。死ぬまで役者かなと思ってる。

唐さんは昔から「人生で代表作が5本あったら幸せな役者だ」って言っててね。いろんな役者さんに聞いてみると、みんな「5本もない」って言うんだ。俺も『少女都市からの呼び声』くらいかな(笑)。いつか代表作が5本あるくらいの役者になりたいね。それが俺の夢かな。

むさか・なおまさ 1954年、東京都生まれ。77年、状況劇場に入団。87年、新宿梁山泊旗揚げに参加。ドラマ、映画、舞台と幅広く活躍する。蜷川幸雄演出舞台は「マクベス」「藪原検校」「冬物語」「ムサン」ロンドン・NYバージョン「身毒丸」「下谷万年町物語」「しみじみ日本・乃木大将」など多数出演。映画では伊丹十三監督「マルタイの女」、深作欣二監督「忠臣蔵外伝 四谷怪談」、北野武監督「アキレスと亀」ほか。9月27日より「ムサン」ロンドン・NYバージョンに出演。

★「ムサン」ロンドン・NYバージョンの公演情報はP.22参照。

MUSIC 8月3日

光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル ～私は彼が来るのを見る、 僕は彼女が奏でるのを待つ～

REPORT

今年はおルガニストの広沢麻美と、コンドルズ主宰の近藤良平が登場。舞曲中心のプログラムで、中には鍵盤楽器のための現存最古の楽譜集「ロバーツブリッジ写本」からの《エスタンピー》といった珍しい曲も。オルガンの魅力を存分に味わえる曲がずらり並んだうえに、今回は更にダンスとのコラボレーション。「目の前に踊っている人がいる光景がとても新鮮」(広)、「オルガンが素晴らしくて、広沢さんも素晴らしい。それだけでも満足」(近)と、お互い刺激を受けながら繰り広げる二人のやり取りが何とも楽しく、広沢が奏でる美しい音色と近藤が繰り出すユニークな動きに、観客は耳も目も釘付けの様子。そして最後は即興演奏×即興ダンス。ダンスとの即興は今回が初めてという広沢だが、リハーサルで数回試してみたらスイッチが入ったという。「近藤さんから受け取るものが多くて、楽に音が出てくるんです」(広)。「即興に正解も不正解もない。出し合いっこができてとても楽しかった」(近)と、最初は動きを音に、音を動きにしていたのが、徐々に複雑になっていき、まさに今その場で二人の間に何か物語が立ち上がっているかのよう。文字通り1秒先に何が起こるか分からないスリリングな展開に、目を輝かせながら見つめる観客の姿が印象的だった。

Photo◎加藤英弘

ケルル《バスカリア》のクライマックスで、光の庭の上から垂れ幕が降りるサプライズも。



PLAY 7月21日

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～彩の国落語大賞受賞者の会 桂文治

桂文治が二席を披露、ゲストに笑福亭鶴光を迎えた何とも贅沢な会。桂かか治『道具や』、春風亭昇々『産まれる』に続き、文治師匠の一席目『鈴ヶ森』は軽妙な語り口で爆笑を誘い、鶴光師匠の『善悪双葉の松』は駄洒落がふんだんに散りばめられた熱演。仲入りを挟み、三遊亭萬橋『権助魚』で再び会場が熱気づく、いよいよ文治師匠のトリ、大ネタ『らくだ』。二席にわたる文治師匠の熱の入った勢いを感じさせる高座に客席は大いに沸いた。

Photo◎加藤英弘



MUSIC 8月24日・25日



埼玉会館&熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ!

今年は浦和と熊谷の2会場で開催。勇壮な《フルキューレの騎行》で幕を開けた後は、ナビゲーター朝岡聡が楽器紹介をする《青少年のための管弦楽入門》。中学生の清水伶はイベールの《フルート協奏曲》で超絶技巧を披露。飯森範親が指揮を教える「指揮者にチャレンジ!」や、自宅から持ち寄った楽器や歌声でオーケストラと共演するコーナーも。聴いて歌って演奏して、音楽の魅力全体で感じられるコンサートとなった。

Photo◎加藤英弘

PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA
9 september 15日 彩の国シエクスピア・シリーズ 13:00 16日 第28弾 13:00 17日 『ヴェニス商人』 13:00/18:30 18日 13:00 19日 21 22 親子のためのファミリー・ミュージカル 『ピノキオ』 13:00 20日 21日/開演15:00 21日 22日/開演11:00, 15:00 22日 『ムサシ』 18:30 23日 ロンドン・NYバージョン 12:30/17:30 24日 13:30 25日 13:30 26日 13:30 27日 12:30/17:30 28日 12:30 29日 12:30 30日 12:30	休館日(熊谷会館) 休館日(彩の国さいたま芸術劇場)	17 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第23回 モディリアーニ弦楽四重奏団 開演:12:10 会場:埼玉会館 大ホール 28 ベルリン・フィルハーモニー 木管五重奏団 開演:17:00	9 september 日 15 月 16 火 17 水 18 木 19 金 20 土 21 日 22 月 23 火 24 水 25 木 26 金 27 土 28 日 29 月 30
10 october 1日 13:30 2日 18:30 3日 18:30 4日 13:30 5日 12:30/17:30 6日 12:30 7日 13:30 8日 19:00 9日 13:30/18:30 10日 18:30 11日 13:30 12日 12:30 13日 12:30/17:30 14日 12:30 15日 13:30 16日 18:30 17日 18:30 18日 13:30 19日 12:30/17:30 20日 12:30 21日 13:30 22日 18:30 23日 18:30 24日 12:30/17:30 25日 12:30 26日 18:30 27日 18:30 28日 19:30 29日 15:00 30日 15:00 31日 15:00	休館日(熊谷会館) 休館日(埼玉会館) dancetoday2013 ダブルビル 19:30 18 関かおり 新作 『島地保武+酒井はな(アルトノイ) 新作』 15:00	5 NHK 交響楽団 秋山和慶(指揮) 伊藤 恵(ピアノ) (15:20 ~指揮者によるプレ・トーク) 会場:埼玉会館 大ホール 19 マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル 開演:15:00 ※終演後、出演者によるアフター・トーク	10 october 日 1 月 2 火 3 水 4 木 5 金 6 土 7 日 8 月 9 火 10 水 11 木 12 金 13 土 14 日 15 月 16 火 17 水 18 木 19 金 20 土 21 日 22 月 23 火 24 水 25 木 26 金 27 土 28 日 29 月 30
11 november 1日 13:30 2日 18:30 3日 18:30 4日 13:30 5日 12:30/17:30 6日 12:30 7日 13:30 8日 19:00 9日 13:30/18:30 10日 18:30 11日 13:30 12日 12:30 13日 12:30/17:30 14日 12:30 15日 13:30 16日 18:30 17日 18:30 18日 13:30 19日 12:30/17:30 20日 12:30 21日 13:30 22日 18:30 23日 18:30 24日 12:30/17:30 25日 12:30 26日 18:30 27日 18:30 28日 19:30 29日 15:00 30日 15:00 31日 15:00	休館日(熊谷会館) 休館日(彩の国さいたま芸術劇場) マチルド・モニエ 『ビュディック・アシッド』『エクスタシス』 15:00	3 イザベル・ファウスト パツハ無伴奏ヴァイオリン作品 全曲演奏会 【第1部】開演15:30 【第2部】開演18:00 ※各部休憩なし ※各部開演いたしますと途中でお入りいただけない場合がございますので、予めご了承ください。 10 ヴェルディ生誕200年記念 ヴェルディ・ガラ・コンサート 開演:15:00 16 光の庭プロムナード・コンサート ~ボジティブオルガン meets アイリッシュミュージック~ 開演:14:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演:荒井敦子(オルガン) & 豊田耕三(アイリッシュフルート) 曲目:A.コレリ/ラ・フォリア ほか ※入場無料	11 november 日 1 月 2 日 3 月 4 火 5 水 6 木 7 金 8 土 9 日 10 月 11 火 12 水 13 木 14 金 15 土 16 日 17 月 18 火 19 水 20 木 21 金 22 土 23 日 24 月 25 火 26 水 27 木 28 金 29 土 30

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~春風亭昇太

新春の四季彩亭には「笑点」でおなじみの春風亭昇太が4年半ぶりに登場。どうぞお楽しみに。



Photo ©加藤英弘

チケット発売日 一般:10月4日(金) メンバース:9月28日(土)

日時:2014年1月26日(日) 開演14:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 出演:春風亭昇太 ほか チケット(税込) 一般3,000円 メンバース2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円

DANCE

ピナ・パウシュ ヴッパタール舞踊団 『KONTAKTHOF - コンタクトホフ』

チケット発売日 一般:12月1日(日) メンバース:11月24日(日)

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.2 北村朋幹

自然に溢れ出る音楽性と知的な構築性が調和して、スケール感が増している北村朋幹が5年ぶりに登場。その成長を聴く。



Photo © Marco Borggreve

チケット発売日 一般:10月19日(土) メンバース:10月12日(土)

日時:2014年3月15日(土) 開演14:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 曲目:シューマン/4つのフーガ 作品72 ベリオ/セクエンツァ IV スクリャービン/ソナタ第10番 作品70 ベートーヴェン/ソナタ第29番 変ロ長調 作品106 「ハンマークラヴィアー」

チケット(税込) 一般:正面席3,500円/バルコニー席2,500円(学生席1,000円) メンバース:正面席3,200円

パツハ・コレギウム・ジャパン バツハ《マタイ受難曲》

不朽の名作《マタイ受難曲》を、世界屈指の演奏団体として広く認められるパツハ・コレギウム・ジャパンの演奏で。



Photo © Marco Borggreve

チケット発売日 一般:11月2日(土) メンバース:10月26日(土)

日時:2014年4月19日(土) 開演16:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 出演:鈴木雅明(指揮)、ハンナ・モリソン(ソプラノ)、クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)、ゲルト・テュルク(テノール:福音史家)、ペーター・コイ(バス:イエス)、パツハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

チケット(税込) 一般:正面席9,000円/バルコニー席7,500円(学生3,000円) メンバース:正面席8,100円

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2013.9-12



10月11日(金)~14日(月・祝) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

A 『海と大陸』 B 『潮騒』 11(金) 11:00(B)/13:30(A)/16:10(A)/19:00(A) 12(土) 10:30(A)/13:10(B)/15:50(A)/18:30(A) 13(日) 10:30(A)/13:10(A)/15:50(B)/18:30(A) 14(月・祝) 10:30(A)/13:10(A)/15:50(A)/18:30(B)

『海と大陸』 ©2011 CATTLEYA SRL・BABE FILMS SAS・FRANCE 2 CINEMA 『海と大陸』 監督:エマヌエーレ・クリアラレーゼ 出演:フィリッポ・ブチッロ ほか(2011年/イタリア・フランス/93分/PG12) 『潮騒』 監督:森永健次郎 出演:吉永小百合、浜田光夫、清川虹子 ほか(1964年/日本/81分)



12月6日(金)~8日(日) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

A 『ベネチアさんの四季の庭』 B 『天のしずく 辰巳芳子 “いのちのスープ”』

『ベネチアさんの四季の庭』 ©ベネチア四季の庭製作委員会 2013 『ベネチアさんの四季の庭』 監督:菅原和彦 出演:ベネチア・スタンリー・スミス ほか(2013年/日本/98分)

『天のしずく 辰巳芳子 “いのちのスープ”』 監督:脚本:河色厚徳 出演:辰巳芳子 ほか(2012年/日本/113分)



11月8日(金)~10日(日) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『スタンリーのお弁当箱』 8(金) 10:30/13:20/16:00/18:40 9(土) 10:30/13:20/16:00/18:40 10(日) 10:30/13:20/16:00/18:40

©2012 FOX STAR STUDIOS INDIA PRIVATE LIMITED. ALL RIGHTS RESERVED. 監督・脚本:アモール・グプタ 出演:ハルソー、デイヴィヤ・ダッタ、ラジェンドラナート・ズーチー ほか(2011年/インド/96分)



9月28日(土)~29日(日) 会場:熊谷会館 ホール

優秀映画鑑賞推進事業 溝口健二監督特集 A 『西鶴一代女』 B 『雨月物語』 C 『山椒大夫』 D 『近松物語』

『西鶴一代女』 28日(土) 10:30(A)/14:00(D)/16:40(B) 29日(日) 10:00(B)/12:50(C)/15:50(A) 監督:溝口健二 出演:『西鶴一代女』 田中絹代、山根寿子、三船敏郎 ほか(1952年/137分) 『雨月物語』 京マチ子、水戸光子、田中絹代 ほか(1953年/96分) 『山椒大夫』 田中絹代、花柳喜章、香川京子 ほか(1954年/124分) 『近松物語』 長谷川一夫、香川京子、南田洋子 ほか(1954年/103分)

※28日(土)10:30『西鶴一代女』上映回は音声ガイドがつきます。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。

PLAY

彩の国シエクスピア・シリーズ第28弾
『ヴェニス商人』

日時：9月5日(木)～9月22日(日)
※開演時間はP.20のカレンダーにてご確認ください。
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：蛭川幸雄
作：W.シエクスピア
翻訳：松岡和子
出演：市川猿之助、中村倫也、横田栄司、大野拓朗、
間宮啓行、石井愼一、高橋克実 ほか
チケット(税込)
一般：S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円(学生2,000円)
メンバーズ：S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円
※当日券は、各公演、開演時間の1時間前より大ホール受付にて販売致します。

親子のためのファミリー・ミュージカル
『ピノキオ ～または白雪姫の悲劇～』

日時：9月21日(土) 開演15:00
22日(日) 開演11:00 / 15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
原作：カルロ・コローディ
作曲・音楽監督：深沢桂子
演出・脚色：宮本亜門
共同演出・振付：福島桂子
出演：小此木麻里、池田有希子、石鍋多加史、治田 敦、
西原 純、岡田 誠、中野順一郎、齊藤嵩也、平林靖子、
水谷圭見、春衣
チケット(税込)
全席自由 一般：大人3,000円
子ども(4歳以上中学生以下) 1,500円
メンバーズ：大人2,700円
※3歳以下の入場はご遠慮ください。
※残席僅少

『ムサシ』 ロンドン・NYバージョン

日時：9月27日(金)～10月20日(日)
※開演時間はP.20のカレンダーにてご確認ください。
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
作：井上ひさし(吉川英治「宮本武蔵」より)
演出：蛭川幸雄
音楽：宮川彬良
出演：藤原竜也、溝端淳平、鈴木 杏、六平直政、
吉田鋼太郎、白石加代子 ほか
チケット(税込)
一般・メンバーズ：S席10,500円/A席8,500円

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～若手落語家競演会

詳細は
⇒ P.17

DANCE

dancetoday2013 ダブルビル
『関かおり 新作』
『島地保武+酒井はな(アルトノイ)新作』

詳細は
⇒ P.8-9

マチルド・モニエ
『ピュディック・アシッド』
『エクスタシス』

詳細は
⇒ P.10-11

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第23回
モディリアーニ弦楽四重奏団

日時：9月17日(火) 開演12:10
会場：埼玉会館 大ホール
出演：フィリップ・ベルナル、
ロイック・リョー(ヴァイオリン)、
ローラン・マルフェング(ヴィオラ)、
フランソワ・キエフェル(チェロ)
曲目：ラヴェル：弦楽四重奏曲 ヘ長調 ほか
チケット(税込)
全席指定1,000円

詳細は
⇒ P.16

ベルリン・フィルハーモニー
木管五重奏団

NHK交響楽団
秋山和慶(指揮) 伊藤 恵(ピアノ)

日時：10月5日(土) 開演16:00(15:20～指揮者による
プレコンサート・トークあり)
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：モーツァルト/
ピアノ協奏曲第20番 二短調 KV 466
ベルリオーズ/幻想交響曲
チケット(税込)
一般：S席6,500円/A席5,500円/B席4,500円(学生2,000円)
メンバーズ：S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円

マレイ・ペライアピアノ・リサイタル

日時：10月19日(土) 開演15:00(公演終了後、出演者
によるアフター・トークあり)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：バッハ/
フランス組曲第4番 変ホ長調 BWV 815
ベートーヴェン/
ピアノ・ソナタ第23番 へ短調「熱情」ほか
チケット(税込)
一般：正面席10,000円 メンバーズ：正面席9,000円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了

イザベル・ファウスト

バッハ無伴奏ヴァイオリン作品全曲演奏会

日時：11月3日(日・祝) 第1部 開演15:30 /
第2部 開演18:00

※各部休憩なし
※各部開演いたしますと途中でお入りいただけない場合がございますので、予めご了承ください。
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：【第1部】 J.S.バッハ/
ソナタ第1番 ト短調 BWV 1001、
パルティータ第1番 口短調 BWV 1002、
ソナタ第2番 イ短調 BWV 1003
【第2部】 J.S.バッハ/
パルティータ第3番 ホ長調 BWV 1006、
ソナタ第3番 ハ長調 BWV 1005、
パルティータ第2番 二短調 BWV 1004
チケット(税込)
【通し券】一般：正面席6,500円
メンバーズ：正面席6,000円
【1回券】一般：正面席4,000円
メンバーズ：正面席3,600円
※バルコニー席、学生席は予定枚数終了
※残席僅少

ヴェルディ生誕200年記念
ヴェルディ・ガラ・コンサート

詳細は
⇒ P.12-13

ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.23 大崎結真

日時：12月1日(日) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ラヴェル/水の戯れ、夜のガスパール
デュティユー/ピアノ・ソナタ ほか
チケット(税込)
一般：正面席3,500円/バルコニー席2,500円(学生席1,000円)
メンバーズ：正面席3,200円
※バルコニー席・学生席は残席僅少

詳細は
⇒ P.14-15

バッハ・コレギウム・ジャパン
モーツァルト《レクイエム》

埼玉会館ランチタイム・コンサート第24回
きりく・ハンドベルアンサンブル

日時：12月13日(金) 開演12:10(終演予定13:00)
会場：埼玉会館 大ホール
出演：きりく・ハンドベルアンサンブル
曲目：J.S.バッハ/主よ、人の望みの喜びよ
カッチーニ/アヴェ・マリア
メル・トーマス/クリスマス・ソング ほか
チケット(税込)
全席指定1,000円

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール!
Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

日時：12月17日(火) 開演19:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ第7番 二長調
ショパン/ポロネーズ第3番・第4番 ほか
チケット(税込)
一般：正面席5,000円
メンバーズ：正面席4,500円
※バルコニー席、学生席は予定枚数終了

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2014
新日本フィルハーモニー交響楽団
小泉和裕(指揮) 中嶋彰子(ソプラノ)
中井美穂(司会)

日時：2014年1月11日(土) 開演15:00
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：ドヴォルジャーク/交響曲第9番《新世界から》
ほか
チケット(税込)
一般：S席5,000円/A席4,000円/B席3,000円(学生1,500円)
メンバーズ：S席4,500円/A席3,600円/B席2,700円

THEATER BRIDGE

Information

【謹告】2014/3/1
「村治佳織の現在Vol.2
オール・カステルヌオーヴォ
ニテデスコ・プログラム」
公演中止について

2014年3月1日(土)に予定しておりました「村治佳織の現在 Vol.2 オール・カステルヌオーヴォニテデスコ・プログラム」は、出演者 村治佳織の病氣療養のため、公演を中止することとなりました。なお、当公演中止に伴う代替公演の予定はございません。
楽しみにお持ちいただいておりますお客様には、ご理解、ご了承を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

Information

さいたまネクスト・シアター
オーディション開催(応募締切:10/31(木) 必着)

彩の国さいたま芸術劇場芸術監督・蛭川幸雄が率いる若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」。2009年の発足当初より数々の話題を呼び、『美しきものの伝説』(2010年)、『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハム

レット』(2012年)では、観客・評論家から高い評価を受け、2作品連続で読売演劇大賞優秀作品賞を受賞しています。この若手俳優カンパニーが、再び新たな才能を求め、オーディションを行います。



表現の場を得ることの出来ない無名の青年たちに、芸能する者の本当の表現の力を獲得して欲しい、と私は思っています。無名性を武器に、新しい演劇をつくることもまた公共の劇場の大切な仕事ではないだろうか、というのが私の思いです。

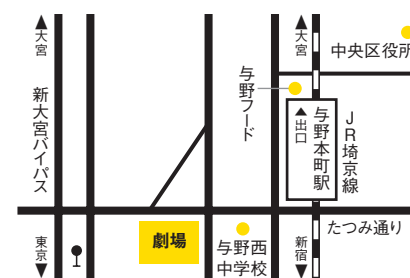
彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督 蛭川幸雄

※応募資格、応募方法等の詳細については、財団ホームページ(<http://www.saf.or.jp>)をご覧ください。

【お問合せ先】
彩の国さいたま芸術劇場
「さいたまネクスト・シアター」
オーディション係
TEL. 048-858-5503
(火～金13:00～18:00)

ACCESS MAP アクセスマップ

【彩の国さいたま芸術劇場】



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話：048-858-5500(代) ファックス：048-858-5515
●電車でのアクセス
→ JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
●バスでのアクセス
→ JR 京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

【埼玉会館】



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話：048-829-2471(代) ファックス：048-829-2477
●電車でのアクセス
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

【熊谷会館】



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話：048-523-2535(代) ファックス：048-523-2536
●電車でのアクセス
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

【チケットの購入方法について】

インターネット



「SAF オンラインチケット」で、
発売初日 10:00 から公演前日
23:59 まで受付いたします。

トップページの「チケット購入」からお進みください。
【PC・スマートフォン】 <http://www.saf.or.jp/>
【携帯】 <http://www.saf.or.jp/mobile/>



【クレジットカード決済→コンビニ発券】
※チケット代のほかに、【チケット一枚につき】システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料210円(代金合計3万円以上は410円)、「チケット1枚につき」システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

電話予約

●チケットセンター
0570-064-939
10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

【クレジットカード決済→宅配便で配送】
※チケット代のほかに、【配送1件につき】配送料300円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料210円(代金合計3万円以上は410円)、「チケット1枚につき」システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

【窓口で支払い・引取り】※手数料はかかりません。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。
電話予約したチケットの引取もできます。
●彩の国さいたま芸術劇場(10:00～19:00)
●埼玉会館(10:00～19:00)
●熊谷会館(10:00～17:00) ※休館日をお確かめの上ご来場ください。

現金もしくはクレジットカード決済、
その場でチケットをお渡します。
※手数料はかかりません。

財団メンバーズのお客様は、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行 (株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバシステム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや 森平舞台機構(株) / 東芝エルティールエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルバインズホテル / アルビーノ村 国際照明(株) / 三国コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動産(株) ビストロ やま / 埼玉縣信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株) / (株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株) ボラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) 国大セミナー / (株) NEWSエンターテインメント (株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株) / 医療法人 櫻会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社 (株) セノン / 東京新聞ショッパー / (株) 松尾楽器商会 / (有) 中央舞台サービス / JA埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部 / (株) 川口自動車交通 / (株) ホンダカーズ埼玉 ファミリーマートあすまや / (株) セブンドリーム・ドットコム / (有) 杉田電機 / 丸茂電機(株) / 太平ビルサービス(株) / さいたま支店 / (株) 片岡食品 / (株) 協栄 (株) ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉支店 / チャコット(株) / (株) 平和自動車 / 光陽オリエントジャパン(株) / 埼玉建設(株)

H25.8.25 現在 / 一部未掲載

【問合せ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



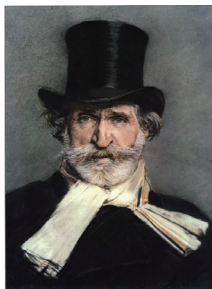
「Viva Verdi !」 ～イタリア人にとってヴェルディはなぜ特別なのか～

文◎加藤浩子 (音楽評論家)

「Viva Verdi !」

イタリアの劇場でヴェルディのオペラを聴くと、そんなかけ声がかかることがある。「Viva Puccini !」

ジュゼッペ・ヴェルディ
(1813 ~ 1901)



「Viva Rossini !」などというかけ声は、まずきいたことがない。イタリア・オペラにおける「天才」という点では、引けをとらないにもかかわらず。イタリアの街で、広場や通りの名前になっている作曲家も、ヴェルディがダントツだ。

ヴェルディが特別扱われている大きな理由は、彼が長い間、イタリアの「祖国統一運動＝リソルジメント」の旗手とされてきたことにある。彼の第3

作目のオペラで出世作となった《ナブッコ》をはじめ、初期から中期にかけてのオペラは統一運動のさなかに作曲されており、少なくともそのいくつかは、他国の支配下にあったイタリア人を鼓舞するために書かれたとされてきた。「ヴェルディ」の名前は、歴史の教科書でもおなじみだ。

実はイタリアの学校には、音楽の授業がない。だからイタリアの子供は、まず歴史上の人物としてヴェルディを知るのである。

だが最近の研究は、ヴェルディと統一運動との直接的な関係を否定している。《ナブッコ》は必ずしも政治的な目的で作曲されたわけではなかった(台本作家にはそのような意図があったが)し、本人が統一運動に身を投じたわけでもない。政治に関心はあったが、政治の季節なら知識人の誰もが持つ程度の関心だったようだ。

ただヴェルディの場合、「その後」が凄かった。オペラはイタリアが外国に誇れる第一の文化だったから、その代表選手だった彼が、対外的な意味もあって、統一後、文化人代表にまつりあげられたのだ。そしてヴェルディも、その役割を受け入れた。

一説によると、イタリア人が心情的により身近に感じるのはヴェルディよりプッチーニのオペラだという。だがイタリア人の価値観や感情を劇的な音楽で心に訴えかけると同時に、慈善家としても活動するなど「立派な人」だったヴェルディは、音楽も含めてやはり特別な、一目置かれるべき存在なのである。



ミラノで行われたヴェルディの国葬
The Bridgeman Art Library / アフロ

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2013.9-10

平成 25 年 9 月 15 日 発行 47 号 (隔月 15 日 発行) 第 47 号 (9 月 - 10 月)
発行人: 竹内文則 発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰 3-15-1 TEL.048-858-5500